

第三者意見



東京工業大学 環境・社会理工学院 教授
中崎 清彦 先生

本報告書にはカワイグループの事業活動にともなう環境報告、社会性報告が適正にまとめられている。2016年度は、企業価値の向上と、長期的な安定成長を目指すことを基本方針とする中期経営計画「Resonate2018」（2016年度－2018年度）が始まった。ピアノコンクールの演奏に優れた性能のピアノを提供したことからわかるハード面の優位性と、海外展開も含めた教育事業の幅広い取り組みというソフト面の充実の両方に、活発な事業活動をみることができ、「100年ブランドの確立」を見据えた取り組みが順調に進んでいることがわかる。

また、CSR（企業の社会的責任）活動としては、音楽を通じた社会貢献であるチャリティコンサート、および「カワイの森」の活動が国内外で長く継続されていることに大きな意義がある。国内では東日本大震災被災地の復興支援、インドネシアでは植林が10年におよび、これまでに、450ha、46万本もの植林の実績を積上げてきている。「木」、「森」、「みどり」というカワイグループの環境に配慮した企業イメージと密接に関連したキーワードにそって、企業が社会的な責任を果たそうとする熱心な取り組みが伝わってくるものとなっている。

2017年度版の本報告書から、2012年12月にグループ会社となった（株）カワイキャスティング、およびその他のグループ会社のデータもあわせて過去にさかのぼった環境関連データをまとめている。このため、環境活動におけるカワイグループ全体の取り組みがわかりやすく示された報告書となっている。環境負荷低減については、CO₂排出量、エネルギー使用量、産廃排出量を原単位で前年比 -1%としていた今年度の目標を達成できていないが、これは、グループ企業各社の生産数量、加工内容、使用する設備等が変化したためである。生産の仕組みが新しく変わったときに、それまでに計画していた削減目標を一時的に満たさないことは当然おこりうる。それをもって、落胆する必要はない。新たな仕組みの中で新たな合理的な目標を設定し、PDCA（計画、実行、評価、行動）のサイクルを廻して環境負荷を低減する不断の取り組みの意欲に変えていくことが重要である。これこそが、報告書をまとめる最も重要な目的といえることができる。

カワイグループは、河合楽器製作所の創立から本年度で90周年になる。これまでのおこなってきた、環境、社会に配慮した事業活動の真摯な取り組みをさらに継続し、PDCAサイクルを廻してさらなる改善に取り組むことで、カワイグループは「100年ブランドの確立」に向けて一層の発展をとげるものと期待される。

第三者意見を受けて

昨年度に続き、東京工業大学 環境・社会理工学院 中崎清彦先生より専門家としてのお立場から広い視野に立った第三者意見を賜ることができました。厚く御礼申し上げます。

その中で、ちょうど10年前の創業80周年事業として始めたカワイの森育成会活動によるインドネシアでの植林や日本国内での植樹、東日本大震災復興支援チャリティーコンサートなどの楽器メーカーならではのCSR活動の継続性を高く評価いただけたことは大変喜ばしく、今後もさらに積極的に推進してまいりたいと考えます。

事業を通じたエネルギー使用量、CO₂排出量などの環境負荷の低減につきましては、今後の課題が多くありますが、今回のご意見を参考にして、さらに努力を続けてまいります。

今後も地球環境の保全活動、文化貢献活動を一層推し進め、「カワイブランド」の価値の向上と持続可能な社会の実現に寄与できるよう環境活動のPDCAサイクルを実施してまいります。

(カワイ地球環境委員会 事務局)